



Yoichi Ishizuka
石塚 洋一

歯科医師
博士（歯学）



東京歯科大学 衛生学講座 准教授

「目の前のことに、ひたむきに。とことん、こだわる。」 ～自ら考え、やり抜く力が、未来をひらく～



大学院で培った力が、その後の道をひらく

東京歯科大学を卒業後、臨床研修を経て、東京歯科大学大学院歯学研究科に進学し、歯周病学を専攻しました。歯周病学を選んだのは、歯周治療や歯周病の予防を通して、患者さんと長く関わっていくことができると考えたからです。大学院では研究に取り組む一方、臨床では一人ひとりの患者さんにじっくりと向き合い、先輩の先生方から多くのことを学びました。

研究では、思うような結果が得られないこともあり、試行錯誤を繰り返しながら、一つの研究テーマに向き合いました。その経験を通して、研究の知識や技術だけでなく、わからないことに直面しても、自ら考え、粘り強く取り組む「やり抜く力」を培うことができたと思います。

大学院修了後は衛生学講座に移籍しました。それまでの「患者さん」という視点に加えて、「一般の生活者」という視点から、予防歯科をより広く考えるようになりました。大きな転機となったのが、スウェーデン・イエテボリ大学への留学です。カリオロジーやスウェーデンの歯科医療を学ぶことで、スウェーデンの良さだけでなく、日本の素晴らしさにも気づくことができました。国によって文化や習慣、価値観などが異なるからこそ、海外の優れた取り組みを日本に適したかたちで取り入れ、日本の予防歯科の発展につなげていきたいと考えています。

現在は衛生学講座で教育・研究に携わりながら、臨床とのつながりを大切にするとともに、地域や社会、歯科保健政策にも視野を広げています。大学院時代に培った研究への姿勢や臨床経験、そして留学で得た新たな視点は、今の自分を支える大切な基盤となっています。振り返れば、最初から計画どおりに進んできたわけではありません。目の前のことにひたむきに向き合い、こだわりをもって取り組んできたことが、少しずつ次の道につながってきたように思います。学生時代から夢見ていた東京歯科大学の教員となり、母校の教壇に立てていることを幸せに感じています。

大学院生へのメッセージ

大学院での研究は、思うように進まないこともあるでしょう。しかし、自ら考え、試行錯誤しながら研究に向き合う経験は、きっとその後の大きな力になります。だからこそ、

「目の前のことに、ひたむきに。とことん、こだわる。」
今しかできない研究に真摯に向き合ってください。その経験が、みなさんの未来をひらく力になるはずですよ。

略 歴

- 2007年 東京歯科大学歯学部卒業
- 2008年 東京歯科大学千葉病院 臨床研修修了
- 2012年 東京歯科大学大学院歯学研究科（臨床系歯周病学専攻）修了
東京歯科大学 衛生学講座 助教
- 2016年 東京歯科大学 衛生学講座 講師
- 2019年 Department of Cariology, Institute of Odontology,
Sahlgrenska Academy, University of Gothenburg 留学（2021年まで）
- 2022年 東京歯科大学 衛生学講座 准教授
東京歯科大学 学生部副部長

- ・日本口腔衛生学会 指導医 専門医 フッ化物応用委員会委員
- ・日本口臭学会 理事 口臭指導医 口臭専門医
- ・日本歯周病学会 認定医
- ・日本ヘルスケア歯科学会 学術特別会員

代表論文

Ishizuka Y, Shibukawa Y, Nagayama M, Decker R, Kinumatsu T, Saito A, Pacifici M, Koyama E.
TMJ Degeneration in SAMP8 Mice is Accompanied by Deranged Ihh Signaling. Journal of Dental Research, 93(3):281-287, 2014
Ishizuka Y, Lehrkinder A, Nordström A, Lingström P.
Effect of Different Toothbrushing Routines on Interproximal Fluoride Concentration. Caries Research, 54(4):343-349, 2020

